

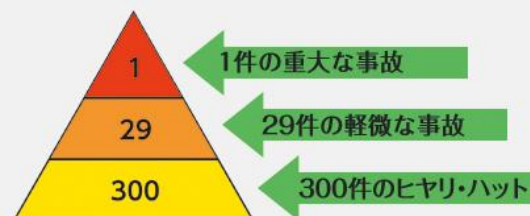
「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



命の授業！～命こそ宝～

一中が最も大事にしていること、それが「命こそ宝」だね。中でも「9.11 命の集会」とそこにこめられている意味は、一中生としてずっと代々受け継いでいってほしいもの。そして、何より大切なことは一人一人が言葉と行動で実践し続けることだね。これまでも「言葉は人を傷つけるナイフにもなれば、人を温かく包みこむ毛布にもなる」「いじめは絶対に許さない」「ルールとは、人が人を大切に思う心を形にしたもの！」…など、たくさんの価値観を積み重ねてきたね。「命の授業」の後にどんな姿になっていくのか、自分に何をプラスワンするのか、ここが大事。「**小さな異常も積もらせない!**」、校舎内に掲示している言葉だね。1つの「**重大な事故**」が発生したとき、その裏に29の「**小さな事故**」があり、さらにその背景には300の「**小さな異常**」が存在している！

ハインリッヒの法則



「**重大な事故**」が発生する背景には、必ずこれらの「**小さな事故**」や「**小さな異常**」が存在している。だからこそ、その先に起こるかもしれない「**重大な事故**」の可能性を想像することがとても大切なんだ。**考え想像する力!**人が人を大切に思う心で、その先に起こるかもしれない**重大な事故**を考え想像してつくられたものが**ルール**。…もう一度「なぜヘルメットをかぶるのか」について考えてみよう。「**なぜそうするのか**」という**芯をしっかりと持つ**ことができるのが、日本一への鍵の1つだからね。さて、「見た目が嫌」「頭が暑い」「髪型が乱れる」…、「ヘルメットをかぶりたいくない理由」はいくらでも思いつくかもしれない。しかし、これらのすべては、ヘルメットの必要性や有効性を否定する理由には決してならない。想像してみよう。「自転車ですら一度も転倒したことがない」という人はほとんどいないよね。転倒して血が出たり、アザになったり、中には骨折したことがある人もいないかもしれない。それがもし『**頭**』だったら、どうなっていたら？あの衝撃を、あの痛みを頭に受けていたら、もっと大変な事態になっていたかもしれない。自転車に乗る以上は、絶対この転倒とケガのリスクから逃れることはできない。**このリスクに立ち向かうただ1つの方法**が「ヘルメットをかぶる」ことなんだ。自転車死亡事故の70%以上が頭部損傷(とうぶそんしょう)。ヘルメットを着用しないと、ヘルメットを着用している場合と比べて致死率が2.5～3倍に上がる。日本の道路(特に津久見)は自転車道がほとんどない上、道幅が狭く、歩道との段差も大きい。中高生を含む子どもが安全に乗れる環境は少ない。だからヘルメットの着用が不可欠だといわれているんだ。**命こそ宝!**君のことを愛する人たちの温かい思いにきちんとかたえ、「**ルールとは、人が人を大切に思う心を形にしたもの!**」だということを深く理解して、「あの人がそうしていたから」ではなく、「自分と一緒にいるから友達もヘルメットをかぶる」という存在に一人一人がなっていこう。そして、みんなの「いってきます」「ただいま」の声がず～っといつまでも続くように。



英語弁論暗唱大会で3年桂原あかりさんが最優秀賞受賞(県大会へ)。おめでとう。下川歩実・下松紗羅・中平大翔さんも堂々のスピーチ。2年生17名の思いっきりはじけた演技の英語劇は大うけで最高～。一中学生素晴らしい。

